



中央病院総合内科 米永 一理

医師の

なるほど医学

第3回 (全3回)

今月のテーマは、

『癌』



です。

厚生労働省の人口動態統計の年間推計によると、日本では、2016年の出生者数は約100万人であり、死亡者数は約130万人です。

この死亡者数の3人に1人が癌で亡くなっています。一方で、癌と診断される人は年間約90万人おり、近いうちに100万人を超えることが予想されています。これは、日本人の2人に1人が生涯に一度は癌になることを示しています。さらに今後の見込みとして、男性は3人に2人は癌になると予想されています。つまり、生涯の中で癌にならない人が珍しい状況になりつつあると言えます。

癌になる人が増えてきている要因として、高齢化が進んでいることが挙げられます。実際、癌と診断される患者の約半数が75歳以上となっています。

癌患者の高齢化に伴い老衰を含め、糖尿病、高血圧など基礎疾患をさまざま抱えている場合が多くなってきています。そのため、今までのような手術療法、化学療法、放射線治療などを行う（以下、『戦う医療』という。）ことが困難である人も多くなってきています。

そこで重要となるのが、『戦う医療』に対する『支える医療』です。『支える医療』はできるだけ苦痛を感じないようにすることを目的とし、できる範囲内で、患者・家族に応じた対応が行われています。

癌になった際の3大苦痛として、①痛み、②うつ、③食べられないことが挙げられます。①は、現在は投薬により大分コントロールができてきた。②は投薬だけでなく、家族を含めた対応が行われています。しかし、③はなかなか難しい課題であります。③に対して、現在当院では、『食べる』をいかに支えるかを全国に先駆けて取り組んでいます。

さらに当院では、これらの苦痛をできるだけ取り除くため、病院まで通えなくなった人のために、訪問診療も行っています。地域の中核病院が在宅医療まで行っているのは全国的にも珍しく、最先端を行っている地域といっても過言ではないと思います。

(文責：中央病院総合内科 米永一理)

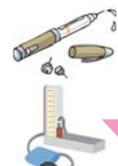
癌を取り巻く現状と癌を克服するための方向性

癌になる人が増加している要因の1つは、『高齢化』が進んでいること。

癌と診断される患者の約半数が75歳以上！



高齢者は癌の他にも、老衰や、基礎疾患（高血圧、糖尿病）を抱えていることが多い。



『戦う医療（手術療法、化学療法、放射線治療など）』が困難となる。



『支える医療』が必要となる。



癌に伴う3大苦痛と対処法

①痛み

投薬により大分コントロールができてきた。



②うつ

家族も含めた対応が行われるようになってきた。



③食べられない

難しい。中央病院では、これを克服する取り組みを全国に先駆けて行っている。



米永医師による講演会（健康都市宣言推進講演会）

なるほど医学 ～こうイメージすればわかりやすい！～

平成30年 **2月28日** 水

開場 午後1時30分 開演 午後2時 定員 300人（先着順）

ところ **市民文化センター** 入場料 **無料**（駐車料金はお負担下さい）

申問健康増進課健康づくり推進係 ☎①6791

健康都市宣言唱和、健康とわだポイントラリーの抽選会を予定しています。